

着衣着火の事故

事故の概要

【事例①】やかんで湯を沸かしていたところ、こんろの火が衣服に燃え移って死亡した。

【事例②】住宅から出火して壁や天井等を焼き、1人が死亡した。

【事例③】保育所で調理実習中、男児のエプロンにカセットこんろの火が燃え移って顔や上半身にやけどを負った。

事故の原因

【事例①】ガスこんろに近づき過ぎたため、こんろの火が衣服に燃え移ったものです。

【事例②】衣服が電気ストーブに触れていたため、着火したものです。【NITEの再現実験】

【事例③】カセットこんろに近づき過ぎたため、エプロンにカセットこんろの火が燃え移ったものです。



火が直接触れていないのに袖口に火が付きました



わずか11秒で肩まで炎が上がりました



事故防止のために

- ◆ガスこんろや電気ストーブなど火が付くおそれのあるものには、近づき過ぎないでください。
- ◆毛足の長いもの、ゆったりと垂れ下がったデザインのものなど火が付きやすい衣類には、特に気をつけてください。
- ◆火に直接あたっていないなくても、火から放射される熱により衣類等に火が付きますので、注意が必要です。

